

第1回

～ カツオビジネス創造会議 2009 ～

カツオ フォーラム 黒潮町

又 漁師 の 土

今こそ、カツオの価値を問い直し、

みんなで（むぎ）合いましょー！

日時／二〇〇九年一〇月三十一日（土）

13時～17時30分

会場／黒潮町総合センター

（佐賀庁舎前）



主催／黒潮町

後援／高知県漁業協同組合

第1回 カツオフォーラムイン黒潮町

趣旨及びテーマ

カツオは古来、日本人の食と文化に大きな影響を与えてきました。そして、黒潮洗う高知県には、カツオの一本釣りを生業としている人が多くいます。中でも、本会議を呼びかける黒潮町は、「カツオ一本釣りにおける日本一の漁獲高を誇る船団」を有し、高知県で最も多くのカツオが水揚げされる町であり、カツオ関連の産業と文化の盛衰は、町の産業と文化の盛衰に直結する課題と考えています。ところが、カツオを一本一本釣り上げる漁法にこだわってきた本町の漁師が今、頭を傾げて感じていることは「カツオが、これまでのように獲れなくなってきた・・・。」ということです。

自然環境の変化や人と文化の交流において、グローバルな思考が欠かせない現在、私達にとっては身近な食材であったカツオ資源や漁の実態はどうなっているのか。また、カツオの食文化とその高付加価値化や有効利用方法はどのように変化しているのか、カツオ産業（カツオ漁業、鰹節製造業など）の盛んな日本各地が交流を図り、相互に活性化するための連携を検討する中で、これからの日本人とカツオとの上手な付き合い方を探っていきたいと思えます。

「今こそ、カツオの価値を問い直し、みんなでつむぎ合しましょう！」

開催スケジュール

総合司会 土佐かつお

- (1) 開会アトラクション（舟歌・鼓踊り） 13:00～
(2) 開会挨拶（下村黒潮町長）

- (3) 第Ⅰ部：わがまちのカツオ自慢
1) 中土佐町：＜10分＞
2) 黒潮町：＜10分＞
3) 愛南町：＜10分＞

（休憩：10分）

14:00～14:10

- (4) 第Ⅱ部：カツオに対する熱きスピーチリレー
※各自15分×7人

- 1) 明神 努（高知県漁業協同組合 代表理事組合長）
「カツオ漁の現況」
- 2) 福田 仁（高知新聞社・記者）
「守れ カツオ資源」
- 3) 竹内太一（土佐料理司・代表取締役社長）
「土佐の一本釣りで活路を開く」
- 4) 受田浩之（高知大学・副学長）
「食品科学から見たカツオ」
- 5) 若林良和
（愛媛大学南予水産研究センター・副センター長）
「黒潮文化としてのカツオ」
- 6) 久塚智明
（㈱F B Tプランニング・元味の素㈱食品研究所長）
「出汁としてのカツオの価値」
- 7) 上田不二夫（沖縄大学・法経学部教授）
「琉球王朝時代の鰹節」

（休憩：10分）

15:55～16:05

- (5) 第Ⅲ部：カツオビジネス創造会議
※コーディネーター：受田浩之・若林良和
「高知・黒潮一番地宣言」へむけて

- (6) 閉会挨拶

～17:30

◎お問い合わせ先

高知県・黒潮町 佐賀総合支所 海洋農林課

TEL 0880-55-3115 FAX 0880-55-2851

HP <http://www.town.kuroshio.lg.jp>

アクセスマップ



〒789-1720
高知県幡多郡黒潮町佐賀1092-1

黒潮町カツオの歴史

400年以上の歴史を誇る土佐のカツオ一本釣り。黒潮町でも鈴地区、佐賀地区、上川口地区は天保時代に調査された、漁獲高の統計表に名を連ね、また、上川口の神社に奉納された絵馬(右下写真)は、高知県最古のカツオ絵馬として数多くの文献で紹介されています。

しかしこれらは『企業の漁業』であり、『自給的漁業』となると、さらに歴史を遡ることになるのではないのでしょうか。

黒潮が生まれ、この黒潮町の地域に人が住み始めた時から黒潮町カツオの歴史が始まった。そんな風に考えると楽しいかもしれません。

